

講義コード	3N036011
講義名	リスクマネジメント論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N3-4103
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松原 真喜子	指定なし

目的

看護職は最も患者の近くにおいて、ケアや処置を実施する職種である。治療や処置の最終実施者であることが多く、医療事故の当事者となる可能性も高い。事故発生メカニズムと発生防止の考え方を学び、医療事故を回避する知識と行動を身に付けることが重要である。この科目では医療安全の動向から組織的な取り組みやセーフティーマネジメントを理解し、主体的に安全を守るすべを学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 医療安全に関する用語と動向を理解する
2. 事故が起きる要因や背景を理解する
3. 看護業務に関わる医療事故と対策を理解する
4. 医療安全のために自分自身が果たすべき役割について考える

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／協働する力

授業計画

1. 医療安全に関する基礎知識
2. 医療安全への取り組み
3. ヒューマンエラーのメカニズム
4. 事故対策と安全文化
5. 看護における医療事故と対策（1）
6. 看護における医療事故と対策（2）
7. 事故後の対応、実習と安全

成績の評価

試験40%・レポート60%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後模範解答を開示する
レポート提出後に解説を実施する

自己学習

講義の中で事前準備や、討議後のレポート提出を示していく

履修上の注意

グループ討議を組み込む予定であるので、討議が速やかに行われるよう迅速な行動、活発な発言を期待する

テキスト

「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」(メディカ出版)

参考資料

講義の中で適宜紹介する

講義コード	3N089011
講義名	看護マネジメント論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N3-4102
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 平山 三千代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平山 三千代

目的

看護管理の概念を理解し、良質の看護サービスが提供するために必要な知識を体系的に学ぶ。

到達目標

1. マネジメント、看護管理の概念が理解できる。
2. ナイチンゲールの小管理を理解し、看護実践のマネジメントをシステムとしてとらえることができる。
3. 医療・看護チームにおける多職種との連携・協働が理解できる。
4. 人的・物的資源管理が理解できる。
5. 看護サービスの質保証と評価・改善が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協働する力／自己研鑽力

授業計画

- 第1回 1.看護、管理、看護管理とは何か
- 第2回 1.管理のもととなる経営管理論
- 第3回 1.歴史からみた看護管理
1) ナイチンゲールの小管理
2) 日本における看護管理の発祥
- 第4回 1.組織の成り立ちと病院の基本的構造
2.医療・看護チームにおける協働
- 第5回 1.業務遂行のマネジメント
1) 人的・物的資源管理
2) 情報の管理
- 第6回 1.一日の業務の組立てと多重課題への対応
- 第7回 1.看護サービスの質保証と評価・改善

成績の評価

- ・筆記試験 : 70点
- ・課題レポート : 30点

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

・第3回までにフロレンス・ナイチンゲール著『看護覚書き』三章「小管理」を読み課題レポートをまとめておく。

テキスト

「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理」医学書院

参考資料

講義の中で適宜紹介する。

講義コード	3N126011
講義名	研究方法論基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N3-4104
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

目的

近代看護の創始者であるF.ナイチンゲールは、さまざまなデータを科学的に分析し、発表することによって、看護職が社会に貢献できる専門職であることを示した。また、学士課程におけるコアとなる能力の一つに根拠に基づいた看護を提供する能力があり、基本的な看護研究に関する学習の必要性が述べられている。そこで、この科目は、看護に関して疑問を持ち、それを科学的に解明するための基礎的な方法について学ぶ。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。看護学を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「考える力」「実践する力」を養う。

到達目標

1. 研究の意義を述べることができる。
2. 研究のプロセスを述べることができる。
3. 研究デザインの概要を述べることができる。
4. 研究計画書の作成プロセスを体験的に学ぶことができる。
5. 研究における倫理的課題を述べることができる。
6. 研究に興味・関心を示すことができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／自己研鑽力

授業計画

1. ガイダンスと看護研究とは何か？
2. 研究論文の読み方
3. 研究疑問と文献検討の方法
4. 研究方法の概要
5. 質的研究と量的研究の特徴と違い
6. 質的研究の特徴 1
7. 質的研究の特徴 2
8. 量的研究の特徴 1
9. 量的研究の特徴 2
10. 量的研究の特徴 3
11. 研究における倫理的配慮
12. 研究計画書の意義と内容
13. 研究計画書の作成 1
14. 研究計画書の作成 2
15. まとめ

成績の評価
定期試験90%とミニレポート10%で評価する。
定期試験、レポート等に対するフィードバック
成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。
自己学習
<ul style="list-style-type: none">・授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行う。・授業内で提示する文献検索を必ず行う。
テキスト
「系統看護学講座 別巻 看護研究」（医学書院）
参考資料
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
水曜日（12：10～13：10）とする。
研究室・授業用E-mail
5号館7階C707研究室 s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	3N146011
講義名	在宅看護学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3414
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 前久保 恵	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

前久保 恵・上坂 智子・平尾 恭子・室谷 牧子・鹿島 英子・西井 崇之

目的

- 【実習A】
在宅看護の関連科目で学んだことを実習体験と統合し、人とその家族が地域社会システムの中で病や障がいと直面して生きることを深く理解するとともに、在宅ケアにおける在宅看護の機能について学ぶ。
- 【実習B】
地域で生活する障がいを持つ人（および家族）の健康課題と生活上のニーズを理解する。本人の自己決定およびエンパワメントによる尊厳ある暮らしの継続を支援することから、本人および家族のQOLを高めるために必要な看護職の役割を考察することができる。あわせて、障がいをもつ人（および家族）の地域生活を支える地域社会資源の実際と関係機関、関係職種との役割と連携のあり方を考える。

到達目標

- 【実習A】
- 1.対象（病や障がいと直面して生きている人とその家族）を理解する。
 - 2.対象（病や障がいと直面して生きている人とその家族）の生活と生活を支える個別的な看護を理解する。
 - 3.地域包括ケアにおける訪問看護ステーションの機能を理解し、在宅ケアにおける看護職の役割について考察する。
 - 4.対象のケアに必要な社会資源とその連携について理解する。
- 【実習B】
1. 障がい者福祉施設の機能および支援の実際を知る
 2. 障がいをもつ人々とのかかわりを通し、対象者の全体像を理解し、健康課題および生活上のニーズを把握し、対象者（および家族）のQOLを高める支援について考察することができる。
 3. 障がいをもつ人（および家族）が地域で尊厳ある暮らしを継続するための地域社会の在り方を考察することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

- 1.本実習は、在宅看護学実習A：7日（訪問看護ステーション⁵日、学内日²日で学内日に実習時

間の調整を行う)、在宅看護学実習B:障がい者福祉施設実習4日の実習である。詳細については3年次の後期9月に在宅看護学実習要項A・Bに沿ってオリエンテーションを行う。

2.実習内容等の具体的なオリエンテーションは、上記9月のオリエンテーションとは別に、在宅看護学実習Aは実習初日に、在宅看護学実習Bは実習前にグループ毎に行う。

成績の評価

実習目標到達度、実習態度、実習記録、事前学習などを総合的に評価する。
詳細については実習要項を参照する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポート等を開示する。

自己学習

- 1.在宅看護学実習要項に示された事前学習と実習中の不明点の自己学習については最低限行うこと。
- 2.基礎看護技術は自己演習も含め復習する。
- 3.信頼関係を築くコミュニケーションのとり方について復習する。
- 4.人のライフステージごとの身体・精神・社会面の状態を復習しておく。

テキスト

- 1.講義および関連科目で用いたテキストや講義資料
- 2.実習に際して配布する資料

参考資料

適宜紹介する

オフィスアワー

【実習A】			
前久保 恵	月曜日	12:10~13:10	
上坂 智子	月曜日	12:10~13:10	
鹿島 英子	月曜日	12:10~13:10	
【実習B】			
平尾 恭子	水曜日	12:30~13:00	
室谷 牧子	水曜日	12:30~13:00	
西井 崇之	水曜日	12:30~13:00	

研究室・授業用E-mail

【実習A】			
5号館7階C706研究室	(前久保)	maekubo@kansai.ac.jp	
5号館7階C713研究室	(上坂)	uesaka@kansai.ac.jp	
5号館7階C710研究室	(鹿島)	kashima@kansai.ac.jp	
【実習B】			
5号館7階C711研究室	(平尾)	kyo.hirao@kansai.ac.jp	
5号館7階C709研究室	(室谷)	muroya@kansai.ac.jp	
5号館7階C721研究室	(西井)	nishii@kansai.ac.jp	

講義コード	3N164011
講義名	小児看護学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	成育看護学分野
科目ナンバリング	N3-3210
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津島和美(看護師) 三浦美知代(看護師)

目的

小児看護に必要な既習の知識・技術を活用し臨地実習において子どもを取り巻く環境が子どもの成長発達や健康状態に影響を及ぼすことを理解するとともに、さまざま発達段階、さまざまな健康状態にある子どもと家族への小児看護が実践できる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 子どもに合わせたコミュニケーションを展開することができる。
2. 子どもの成長発達の特性と成長発達の支援の方法を理解することができる。
3. 治療や入院が子どもと家族に及ぼす影響がわかり、健康状態や成長発達に必要な看護を実践することができる。
4. 子どもの成長発達で生じやすい事故と安全管理を考えることができる。
5. 小児医療チームにおける小児看護専門職の役割と責任について述べるすることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

詳細は「小児看護学実習要項」参照

成績の評価

小児看護学実習評価表(100%)

オフィスアワー

事前連絡あれば調整し対応する。

研究室・授業用E-mail

C704研究室・tushima@kansai.ac.jp(津島)

講義コード	3N237011
講義名	精神看護学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3313
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

和田 幸子、川端 明雄 [看護師]

目的

精神疾患をもつ対象者とのかかわりを通して、個人の尊厳及び権利擁護についての理解を深め、日常生活や対人関係に困難を抱えている対象者との援助関係の形成と、対象者の強み（ストレングス）を生かした個別的な看護援助の実際について学ぶ。

到達目標

1. 対象者の療養環境の特性を理解し、対象者の尊厳及び権利擁護への配慮ができる。
2. 対象者が日常生活を送る上でどのような困難を抱えているかについて理解できる。
3. 対象者との援助関係を発展させることができる。
4. 対象者に対してセルフケア理論を活用した看護過程を展開できる。
5. 精神科医療で提供される様々な医療・保健・福祉について理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力/協働する力

授業計画

詳細は精神看護学実習要項を参照のこと。

成績の評価

実習評価表に基づいて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

個人面談により実施する。

自己学習

入院形態、行動制限、統合失調症、双極性障害、薬物療法、精神科デイケア、作業療法、患者の権利擁護、セルフケアの援助、プロセスレコード、患者 - 看護師関係の発展と終結などについて学習しておく。

テキスト

- 「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり（改訂第2版）」（南江堂）
「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（改訂第2版）」（南江堂）

参考資料

- 「精神看護 第2版パーフェクト臨床実習ガイド」（照林社）

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp (和田)

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp (川端)

講義コード	3N321011
講義名	母性看護学実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3209
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中静枝（助産師）
 井上 京子（助産師）
 有馬 美保（助産師）
 三宅 美恵（助産師）
 和田 薫（助産師）

目的

周産期にある対象の援助場面を通して、健康上の課題を総合的に把握し、個別性の理解を行い、問題解決に向けた看護を計画・実践・評価する基礎能力を養う。また、生命誕生の神秘や偉大さを学ぶと共に、健全な次世代育成の課題についても考える機会とする。

到達目標

ウェルネスの視点から周産期にある対象の健康状態について理解し、対象に必要な基礎的な看護援助を実践できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

母性看護学実習要項参照

成績の評価

実習到達度70%、実習態度20%、課題点10%にて評価する。

自己学習

母性看護方法論Ⅰ・Ⅱ・展開論の授業内容、事前学習課題を整理し実習に臨むこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版
 母性看護技術：メディカ出版

参考資料

病気が見える産科：MEDIC MEDIA
 ウェルネスからみた母性看護過程：医学書院
 周産期ケアマニュアル：医学芸術社

母性看護実習ガイド：照林
母乳育児支援スタンダード：医学書院
ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前に連絡を入れること

研究室・授業用E-mail

5号館C703研究室	s.tanaka@kansai.ac.jp	(田中)
5号館C712研究室	k.inoue@kansai.ac.jp	(井上)
5号館C709研究室	arima@kansai.ac.jp	(有馬)
5号館C717研究室	miyake@kansai.ac.jp	(三宅)
5号館C721研究室	k.wada@kansai.ac.jp	(和田)

講義コード	3N510011
講義名	医療英語
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1310
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 入交 重雄	指定なし

目的

医療英語の運用能力を高めること。

到達目標

医療英語の習得。
日本医学英語検定試験4級程度のレベル。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

- 1 7章 咳
- 2 7章 咳
- 3 8章 腹痛
- 4 8章 腹痛
- 5 9章 嚔下障害
- 6 9章 嚔下障害
- 7 10章 聴力障害・難聴
- 8 10章 聴力障害・難聴
- 9 11章 骨折
- 10 11章 骨折
- 11 12章 妊娠
- 12 12章 妊娠
- 13 1章 発熱
- 14 1章 発熱
- 15 総括

成績の評価

定期試験80点、授業態度・参加度、小テスト成績等20点

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

テキスト内容の音読、CD/ダウンロード音声のリスニング

履修上の注意
テキスト、辞書（電子辞書可）、ノート必携
テキスト
総合医学英語テキスト Step1（メジカルビュー）2016年
参考資料
日本医学英語検定試験 ³ ・4級教本 2015年

講義コード	3N511011
講義名	保健統計学演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N3-2308
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

小山 秀之〔公認心理師・社会福祉士・臨床心理士〕、平尾 恭子〔保健師〕

目的

地域診断に不可欠な方法およびプロセスを理解し、パソコンを用いて地域診断を行うための基礎的能力を修得する。また、地域住民の健康および生活習慣に関わる情報を集団的に処理し、統計的手法を用いて健康課題を明確化できる能力を養う。

到達目標

1. 健康等に関する集団的データをもとに、Excelソフトを用いて図表およびグラフを作成できる。
2. 上記、作成した図表およびグラフから集団のデータが示す意味を読み取ることができる。
3. 分析ツールを用いて情報を解析し、健康等に関する課題を明確化できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. Excel操作
2. Power Pointの操作
3. 記述統計①（尺度水準、代表値）
4. 記述統計②（度数分布表、ヒストグラム、折れ線グラフ）
5. 記述統計③（クロス集計表、ピボットテーブル）
6. 記述統計④（散布図、箱ヒゲ図）
7. 推測統計①（仮説検定の考え方）
8. 推測統計②（相関分析）
9. 推測統計③（量的データの比較）
10. 推測統計④（質的データの比較）
11. 演習①（与えられたデータをもとに、エクセルで図表を作成する）
12. 演習①（作成した図表から考えられる課題を見つける）
13. 演習②（作成した図表と課題をパワーポイントにまとめ、発表資料を作成する）
14. グループ発表①（発表：1グループ約10～15分程度）
15. グループ発表②（発表：1グループ約10～15分程度）

成績の評価

授業の成果物（50%）、レポート（30%）、授業への取り組み度（20%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
2年前期に履修した保健統計学の授業内容を復習しておくこと。

テキスト

適宜、プリントを配布する。

参考資料

- ・「ていねいな保健統計学」（羊土社）
- ・「これで使える！保健師のためのデータ活用ブック」（東京図書）
- ・「よくわかる医療・看護のための統計入門(第2版)」（東京図書）

講義コード	3N512011
講義名	臨床看護実践論A
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N3-3108
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松下 直子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松下直子[看護師]、中納美智保[看護師]、堀本知春[看護師]

目的

臨床で必要とされる看護技術の中で侵襲的な技術について学修する。さらにそれらの看護技術を患者の状況に合わせ、安全にかつ適切に実施する方法を学ぶ。また、演習を通して看護実践を支える倫理感を高める。

到達目標

1. 患者の状況を理解し、侵襲的な技術を安全に実施することができる。
2. 患者の状況に合わせて、侵襲的な技術を安楽に実施することができる。
3. 侵襲的な技術を実施するために必要な行動を考えることができる。
4. 主体的に取り組み、行った看護を振り返ることができる。
5. 倫理に基づいた姿勢や行動をとることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 医療安全について
2. 創傷処置に関する基礎的知識
3. 創傷処置（演習）
4. 与薬に関する基礎的知識
5. 皮内注射・筋肉内注射に関する基礎的知識
6. 筋肉内注射（演習）
7. 静脈内注射に関する基礎的知識
8. 静脈内注射（演習）
9. 罨法に関する基礎的知識
10. 経管栄養法に関する基礎的知識①
11. 経管栄養法に関する基礎的知識②
12. 経管栄養法（演習）
13. 罨法、浣腸を行っている患者の看護（演習）
14. 持続点滴、酸素療法、膀胱留置カテーテルの留置を行っている患者の看護（演習）
15. まとめ

成績の評価

定期試験80%、授業への取り組み度を20%で評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「看護がみえるvol.2 臨床看護技術」 （メディックメディア）
 2. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 （医学書院）
 3. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 （医学書院）
- （2. 3はともに1年次に購入したもの）

参考資料

「看護がみえるvol.1 基礎看護技術」 （メディックメディア）他、授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日12：00～13：00

研究室・授業用E-mail

5号館C716号室

E-mail:matsushita@kansai.ac.jp（松下）

講義コード	3N512012
講義名	臨床看護実践論B
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学分野
科目ナンバリング	N3-3108
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松下 直子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松下直子[看護師]、中納美智保[看護師]、堀本知春[看護師]

目的

臨床で必要とされる看護技術の中で侵襲的な技術について学修する。さらにそれらの看護技術を患者の状況に合わせ、安全にかつ適切に実施する方法を学ぶ。また、演習を通して看護実践を支える倫理感を高める。

到達目標

1. 患者の状況を理解し、侵襲的な技術を安全に実施することができる。
2. 患者の状況に合わせて、侵襲的な技術を安楽に実施することができる。
3. 侵襲的な技術を実施するために必要な行動を考えることができる。
4. 主体的に取り組み、行った看護を振り返ることができる。
5. 倫理に基づいた姿勢や行動をとることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 医療安全について
2. 創傷処置に関する基礎的知識
3. 創傷処置（演習）
4. 与薬に関する基礎的知識
5. 皮内注射・筋肉内注射に関する基礎的知識
6. 筋肉内注射（演習）
7. 静脈内注射に関する基礎的知識
8. 静脈内注射（演習）
9. 罨法に関する基礎的知識
10. 経管栄養法に関する基礎的知識①
11. 経管栄養法に関する基礎的知識②
12. 経管栄養法（演習）
13. 罨法、浣腸を行っている患者の看護（演習）
14. 持続点滴、酸素療法、膀胱留置カテーテルの留置を行っている患者の看護（演習）
15. まとめ

成績の評価

定期試験 %、授業への取り組み度を %で評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「看護がみえるvol.2 臨床看護技術」 (メディックメディア)
 2. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院)
 3. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院)
- (2. 3はともに1年次に購入したもの)

参考資料

「看護がみえるvol.1 基礎看護技術」 (メディックメディア) 他、授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日12:00~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館C716号室

E-mail:matsushita@kansai.ac.jp (松下)

講義コード	3N513011
講義名	母性看護方法論Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3203
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

- ・田中静枝(助産師)
- ・井上京子(助産師)
- ・有馬美保(助産師)
- ・三宅美恵子(助産師)
- ・和田薫(助産師)

目的

女性の一生の中で、最も母性機能を発揮する妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の特徴を理解し、ハイリスク妊娠・分娩の問題点を理解し、対象に適切な看護を実践するために、臨床実践に沿った方法と具体的な看護技術を学修する。

到達目標

- ・ハイリスク妊娠・分娩の問題点を説明できる。
- ・妊娠、出産、産褥、新生児期における看護技術が実践できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 妊娠期の異常と看護①（和田）
2. 妊娠期の異常と看護②（和田）
3. 妊娠期の異常と看護③（和田）
4. 妊婦・産婦・褥婦の看護に関わる看護技術（井上、有馬、三宅、和田）
5. 分娩期の異常と看護①（和田）
6. 分娩期の異常と看護②（和田）
7. 産褥期の異常と看護①（和田）
8. 新生児の看護に関わる技術（井上、有馬、三宅、和田）
9. 産褥期の異常と看護②（和田）
10. 産褥期の異常と看護③（和田）
11. 新生児期の異常と看護①（田中）
12. 新生児期の異常と看護②（田中）
13. 特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援①（和田）
14. 特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援②（和田）
15. 特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援③（和田）

成績の評価

80

20%

試験 %・小テスト にて評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

指定されたテキストで授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

母性看護技術：メディカ出版

参考資料

病気が見える産科：MEDIC MEDIA

母性看護学1妊娠分娩：医歯薬出版株式会社

母性看護学2産褥・新生児：医歯薬出版株式会社

母性看護学：医学芸術社

系統看護学講座 専門25 母性看護学各論 医学書院

母乳育児支援スタンダード：医学書院

妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW

オフィスアワー

随時可能も事前に予約の事

研究室・授業用E-mail

5号館C703研究室	s.tanaka@kansai.ac.jp	(田中)
5号館C712研究室	k.inoue@kansai.ac.jp	(井上)
5号館C709研究室	arima@kansai.ac.jp	(有馬)
5号館C717研究室	miyake@kansai.ac.jp	(三宅)
5号館C721研究室	k.wada@kansai.ac.jp	(和田)

講義コード	3N514011
講義名	母性看護展開論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3204
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中静枝（助産師）

目的

身近で具体的な事例を、ミニシアターやロールプレイを用いて総合的に理解し、エビデンスに基づき、実践的な看護について、チームで協働し考える事ができる。

到達目標

1. 周産期にある母子の援助に必要な基礎的実践技術を理解することができる。
2. 周産期における対象者の看護過程の展開ができる。
3. TBL (team-based learning) を用いた学習によって主体的・対話的に課題を解決していく中で、協働する力を身につけることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. TBLガイダンス・チーム編成
2. 母性看護における看護過程について
3. 事例で学習する妊婦の支援①（TBL・GW）
4. 事例で学習する妊婦の支援②
5. 事例で学習する産婦の支援①（TBL・GW）
6. 例で学習する産婦の支援②（産痛緩和・補助動作）
7. 事事例で学習する褥婦の支援①（TBL・GW）
8. 事例で学習する褥婦の支援②(褥婦の観察)
9. 事例で学習する褥婦の支援③
10. 事例で学習する褥婦の支援④
11. 事例で学習する母乳育児支援①（母乳観察）
12. 事例で学習する母乳育児支援②
13. 事例で学習する新生児の支援①（TBL・GW）
14. 事例で学習する新生児の支援②
15. まとめ

成績の評価

個人テスト18%とチーム得点+ピア評価 42%
定期試験40%で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する

自己学習

TBLには個人テストやチームテストがあるため、自己学習が不可欠である。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習をおこなうこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

母性看護技術：メディカ出版

参考資料

病気が見える産科：MEDIC MEDIA

母性看護技術：医学書院

周産期ケアマニュアル：医学芸術社

母性看護学実習ガイド：照林社

ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院

母乳育児支援スタンダード：医学書院

妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW

ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院

母性看護実習プレブック 看護過程の思考プロセス：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前に予約を入れること。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C703研究室 s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	3N515011
講義名	小児看護方法論Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学分野
科目ナンバリング	N3-3207
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津島和美(看護師) 三浦美知代(看護師)

目的

さまざまな健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を理解するとともに小児に生じやすい疾患、症状を基にして子どもの健康状態のアセスメントの方法や発達段階を考慮した子どもと家族の看護を実践するための基礎的能力を学修する。

到達目標

1. 健康状態のアセスメントの方法を述べることができる。
2. 健康状態と発達段階をふまえて生活環境を整える必要性が理解できる。
3. 健康状態や子どもを取り巻く環境が子どもの成長発達に影響及ぼすことが理解できる。
4. 小児看護技術の原理原則を述べるができる。
5. 健康状態をふまえ発達課題を取り入れた支援の必要性を述べるができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護①
2. 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護②
3. 子どものヘルスアセスメントと観察技術
4. 治療、検査、処置を受ける子どもと家族の看護①
5. 環境、症状、ヘルスアセスメントに関する演習
6. 治療、検査、処置を受ける子どもと家族の看護②
7. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護①
8. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護②
9. 健康問題をもつ子どもと家族の社会課題
10. 課題演習A
11. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護③
12. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護④
13. 身体障がい、発達障がいをもつ子どもと家族の看護①
14. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護④
15. 基本的な小児看護技術

成績の評価

定期試験(95%) 授業への取り組み(5%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護① 医学書院
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護② 医学書院
- ・小児看護実習ガイド 照林社

オフィスアワー

火曜日 16:00～18:00

研究室・授業用E-mail

C704研究室 tushima@kansai.ac.jp (津島)

講義コード	3N516011
講義名	小児看護展開論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学分野
科目ナンバリング	N3-3208
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津島和美(看護師) 三浦美知代(看護師)

目的

小児看護実践の特徴をふまえた小児看護方法論Ⅱと並行しながら病気や障がい等の健康問題をもと子どもと家族に対して子どもの健康状態の維持、回復するために発達課題・個別性を関連させ小児看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度とそれらを活用方法を学ぶ。

到達目標

1. 小児看護を実践するための思考過程の方法を説明することができる。
2. 小児看護を実践するための基礎的知識・技術、その活用方法を考えることができる。
3. 子どもへの尊重・安全・安楽・自立を考慮した小児に必要な看護技術を実施することができる。
4. 発達段階を捉えた子どもの健康回復や維持のための方法を
5. 小児看護を実践するための自己の課題を述べることができる

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 小児看護を考えるための看護過程①
2. 小児看護を考えるための看護過程①
3. 発達段階、健康問題に関する事例検討①-1
4. 発達段階、健康問題に関する事例検討①-2
5. 環境、ヘルスアセスメントに関する演習A
6. 治療・検査・処置に関する演習
7. 発達段階、健康問題に関する事例検討②
8. 発達段階、健康問題に関する事例検討③
9. 課題演習B
10. 発達段階、健康問題に関する事例検討④
11. 課題演習C
12. 身体障がい、発達障がいをもつ子どもと家族への支援
13. 発達段階、健康問題に関する事例検討⑤
14. 発達段階、健康問題に関する事例検討⑥
15. まとめ

成績の評価

定期試験(90%) 授業への取り組み、課題(10%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護① 医学書院
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護② 医学書院
- ・小児看護実習ガイド 照林社

オフィスアワー

火曜日 16:00～18:00

研究室・授業用E-mail

C704研究室 tushima@kansai.ac.jp(津島)

講義コード	3N519011
講義名	成人看護方法論Ⅲ（回復期）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学分野
科目ナンバリング	N3-3304
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 児嶋 章仁	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

児嶋章仁〔看護師〕
阿部香織〔看護師〕
神戸美輪子〔看護師〕

目的

健康障害をもつ対象者の生活の自立や社会復帰に向けた看護，保健活動について学修する。また，治療を受けた対象者に生じる形態機能の変化をとらえ，それらに適応した生活を送るための具体的な看護について考える。

到達目標

1. リハビリテーションの意義やそこでの看護の役割について述べるができる。
2. 障害受容と生活の再構築，社会復帰に向けての看護について考えることができる。
3. 健康問題の治癒・回復過程にある対象者に必要な援助を思考し，看護実践方法を述べるができる。
4. 健康問題および治療に伴う形態機能の変化をとらえ，適応に向けての看護を計画することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 回復期看護の概念とリハビリテーション看護（児嶋）
2. 呼吸機能障害のある患者の看護 肺切除術後の看護①（児嶋）
3. 呼吸機能障害のある患者の看護 肺切除術後の看護②（児嶋）
4. 排泄機能障害のある患者の看護 大腸切除術後の看護（児嶋）
5. 循環機能障害のある患者の看護 冠動脈バイパス術後の看護（児嶋）
6. 機能障害をもちながら生活する人の看護 胃切除術後の看護①（児嶋）
7. 機能障害をもちながら生活する人の看護 胃切除術後の看護②（児嶋）
8. 機能障害をもちながら生活する人の看護 肝切除術後の看護（阿部）
9. 中枢神経系の障害と看護 脊髄損傷患者の看護（児嶋）
10. 中枢神経系の障害と看護 脳血管疾患患者の看護（阿部）
11. 女性生殖器疾患と看護 乳房切除術を受ける患者の看護（阿部）
12. 機能障害をもちながら生活する人の看護 運動器疾患 術後の看護①（神戸）
13. 機能障害をもちながら生活する人の看護 運動器疾患 術後の看護②（神戸）
14. 排泄機能障害のある患者の看護 膀胱がん切除術後の看護（児嶋）
15. 視覚・聴覚障害をもちながら生活する患者の看護（児嶋）

成績の評価

筆記試験80%，授業への取り組み度20%で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習が必要です。

参考資料

看護にいかす疾病論で使用した「系統看護学講座」(医学書院)，成人看護方法論II(急性期)で使用したテキストを中心に適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 C719研究室
a.kojima@kansai.ac.jp

講義コード	3N520011
講義名	成人看護方法論Ⅳ（終末期）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3305
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 永田 浩子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

永田浩子〔緩和ケア認定看護師〕

外部講師〔緩和ケア認定看護師〕

目的

がん、その他の疾患により人生の最終段階にある人々が、尊厳をもって個の特性に応じた人生を送ることができるための看護実践を学ぶ。また身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的な苦痛を抱える対象やその家族の特徴について学び、人生の最終段階にある人々および緩和ケアが必要な人々のQOLの維持・改善、倫理問題などを理解する。

到達目標

- ・人生の最終段階にある人々に対する看護の基本的な考え方を理解できる。
- ・人生の最終段階にある人々を取り巻く状況の変化や現在の課題について理解できる。
- ・人生の最終段階にある人々のアセスメントの視点・緩和ケアについて理解する。
- ・人生の最終段階にある人々および緩和ケアにおける多職種チームアプローチの必要性について理解できる。
- ・人生の最終段階にある人々へのケアを提供する看護師に求められる基本的態度について理解できる。

授業計画表

成人看護方法論Ⅳ（終末期）

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

- 1 緩和ケア概論 がん患者が抱える苦痛とQOL 永田
- 2 緩和ケアとは チームアプローチについて 永田
- 3 緩和ケアにおける看護師の役割 永田
- 4 がんの治療を受ける患者の看護（放射線療法）外部講師 佐々木
- 5 がんの治療を受ける患者の看護（化学療法）外部講師 福井
- 6 疼痛アセスメントと援助 外部講師 山田
- 7 身体症状とその治療・看護 永田
- 8 血液疾患のある患者の看護 外部講師 大石
- 9 精神症状とその治療・看護 永田
- 10 全人的苦痛のアセスメントと援助について 永田
- 11 意思決定支援とコミュニケーション 永田
- 12 臨死期のケア、エンゼルケア 永田

- 13 喪失・悲嘆のケア, 家族ケア 永田
- 14 終末期における倫理的問題と看護 永田
- 15 非がん疾患患者の緩和ケア 永田

成績の評価

筆記試験 80%、小テスト 10%、課題レポート 10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

該当のテキスト部分を読んで講義に臨んでください。

テキスト

緩和ケア 成人看護学⑥ ナーシンググラフィカ (メディカ出版)

参考資料

がん看護学、系統看護学講座、別冊 (医学書院)

その他、講義内で随時提示する。

オフィスアワー

質問などがある場合は、該当する教員にメールで連絡してください。

永田：水曜日：12:10-13:00

不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡をお願いします。

上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

(永田) 5号館7階 共同研究室 nagata@kansai.ac.jp

講義コード	3N521011
講義名	成人看護展開論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3306
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸美輪子〔看護師〕
 兒嶋章仁〔看護師〕
 吉井輝子〔看護師〕
 阿部香織〔看護師〕
 今井幸子〔看護師〕
 永田浩子〔看護師〕

目的

成人期の健康障害のある事例について、看護理論を用いながら看護過程の展開を行う。また、疾患の特徴やそれぞれの健康レベルにある対象者の理解と、看護援助を実施する際に必要な基礎的看護技術について学ぶ。

到達目標

1. 健康障害のある対象の看護過程を展開できる。
2. 糖尿病患者に必要な看護技術（血糖測定・フットケア）について理解し述べることができる。
3. 心不全患者に必要な看護について述べることができる。
4. 大腸切除術を受ける患者に必要な看護について述べることができる。
5. 大腸切除術後の患者に対する回復促進の技術（術後観察・早期離床）を習得できる。
6. 呼吸・循環を整えるための技術（BLS・吸引・輸液ポンプ）を習得できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 糖尿病をもつ患者の看護（今井）
2. 糖尿病をもつ患者の看護・自己血糖測定演習（今井／神戸／吉井／兒嶋／永田／阿部）
3. 糖尿病をもつ患者の看護（今井）
4. 心不全患者の看護（今井）
5. 心不全患者の看護（今井）
6. 心不全患者の看護（今井）
7. 輸液ポンプの操作（吉井／今井／永田）
8. 大腸切除術を受ける患者の看護（兒嶋）
9. 大腸切除術を受ける患者の看護（兒嶋）

10. 大腸切除術を受ける患者の看護（兒嶋）
11. 術後観察（兒嶋／神戸／阿部／吉井／今井／永田）
12. 術後の早期離床（兒嶋／阿部／吉井／今井／永田）
13. 退院指導（今井／神戸／吉井／兒嶋／永田／阿部）
14. 吸引（阿部／神戸／兒嶋／吉井／今井／永田）
15. BLS（兒嶋／神戸／阿部）

成績の評価

筆記試験 50%、演習レポート 20%、課題レポート 30%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき、0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

第1～7回：成人看護学方法論Ⅰ・Ⅳで用いたテキスト、参考書、講義資料を持参。事前に指示する。

第8～15回：成人看護学方法論Ⅱ・Ⅲで用いたテキスト、参考書、講義資料を持参。事前に指示する。

参考資料

講義内で随時提示する。

オフィスアワー

水曜日 12：00～13：00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714号室
kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	3N522011
講義名	精神看護方法論Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3309
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

和田 幸子、川端 明雄[看護師]

目的

精神の病をもつ人々の生活支障によりその生活の質の向上がはかれるような看護に必要な知識を理解する。診断された精神疾患によって表出される症状は、患者の置かれた状況や発症に至る経緯、生育歴を含む個人要因によっても変化し、患者の全体像を総合的に理解することは容易ではない。コミュニケーションや観察をとおして患者の病の体験症状や表出症状から全体像の総合的把握につなげるために必要な知識を理解し、精神医療における入院治療の特徴をふまえ、入院中から退院後の生活を見据えた看護を志向できるような理解をする。

到達目標

1. 主な精神疾患の症状、治療、看護の概要を理解する。
2. 精神科病院に入院中の看護について理解する。
3. 精神の病をもつ人々の地域生活支援の必要性と社会資源について理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 精神疾患と看護ケア—統合失調症①（川端）
2. 精神疾患と看護ケア—統合失調症②（川端）
3. 精神疾患と看護ケア—双極性障害／うつ病（和田）
4. 精神疾患と看護ケア—強迫症／強迫性障害（和田）
5. 精神疾患と看護ケア—パニック障害／PTSD（和田）
6. 精神疾患と看護ケア—アルコール使用障害／依存症（和田）
7. 精神疾患と看護ケア—摂食障害・パーソナリティ障害（和田）
8. 精神疾患と看護ケア—知的障害・発達障害（自閉症スペクトラム症）（川端）
9. 家族システム、家族への支援（和田）
10. 身体合併症とケア、包括的暴力予防プログラム（川端）
11. 当事者の体験談（外部講師）
12. 障害者総合支援法におけるサービス、インフォーマルサポート（和田）
13. 精神障害者の社会復帰における地域移行・地域定着支援への取り組み（和田）
14. 精神科デイケア、精神科訪問看護（和田）
15. 事例から学ぶリエゾン精神看護（外部講師）

成績の評価

90%

10%

試験、授業への取り組み度 で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり(改訂第2版)」(南江堂)

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア(改訂第2版)」(南江堂)

参考資料

「マンガでわかる統合失調症」(日本評論社)

「幻覚妄想体験の治療ガイド 正体不明の声—対処するための10のエッセンス—」(アルタ出版)

「アルコール依存症から抜け出す本」(講談社)

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp(和田)

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp(川端)

講義コード	3N523011
講義名	精神看護展開論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3310
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

和田 幸子、川端 明雄[看護師]

目的

精神の病をもつ人の事例について、提供された紙面情報を検討し、アセスメントに必要な不足情報を明らかにし、アセスメントに関連づいた問題点の抽出と看護計画立案の一連の過程をとおり精神看護における思考力を養う。セルフケア理論に基づく看護過程を展開することで精神看護に必要な知識を整理し関連付け、看護計画について論理的に説明できる能力を養う。

到達目標

1. 各事例においての不足情報が検討できる。
2. 看護計画の内容について論理的な説明ができる。
3. 看護過程の一連のプロセス評価の視点が明確になる。
4. 事例展開に必要な知識を関連付けて理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 授業ガイダンス セルフケアの視点（和田・川端）
2. 統合失調症事例①－事例説明・情報整理（和田・川端）
3. // －不足情報の検討（和田・川端）
4. // －アセスメント（和田・川端）
5. // －計画立案（和田・川端）
6. // －グループ発表・意見交換①（和田・川端）
7. // －グループ発表・意見交換②（和田・川端）
8. 小まとめ（和田・川端）
9. うつ病事例②－事例説明・情報整理（和田・川端）
10. // －不足情報の検討（和田・川端）
11. // －アセスメント（和田・川端）
12. // －計画立案（和田・川端）
13. // －グループ発表・意見交換①（和田・川端）
14. // －グループ発表・意見交換②（和田・川端）
15. まとめ（和田・川端）

成績の評価

40

40%

20%

課題レポート %、事例展開のワークシート、授業への取り組み度 で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

学習内容：疾患に関連する知識、薬剤の作用・副作用、事例で使用されている専門用語、セルフケア理論

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり(改訂第2版)」(南江堂)

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア(改訂第2版)」(南江堂)

参考資料

「看護のための精神医学」(医学書院)

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp (和田)

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp (川端)

講義コード	3N524011
講義名	成人看護学実習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	3
科目分類・分野名	臨床実践看護学分野
科目ナンバリング	N3-3311
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉井 輝子	指定なし
教員	北得 美佐子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

吉井輝子 今井幸子 永田浩子

目的

慢性的な健康障害をもち、生涯にわたり生活をコントロールしていく必要がある対象者について、成人期にある人々の特性をふまえて、身体的・心理的・社会的特徴を総合的に理解する。また、対象者がセルフケアを行い生活を維持するとともに、急性増悪の予防が行えるために必要な看護を実践することができる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 対象者をライフサイクルの中に位置づけ、看護の視点から総合的に理解し、記述することができる。
2. 対象者の健康障害に応じた看護過程を展開することができる。
3. 対象者の療養継続のために必要な医療・看護チームの協働・連携における役割を理解することができる。
4. 対象者の人格や人権を尊重した対応ができる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員としての役割を自覚して行動することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

1. 成人看護学実習Ⅰの要項にそって、実習施設や方法など、具体的にオリエンテーションを行う。
2. 3単位135時間（3週間）の実習期間について具体的なオリエンテーションは、各実習初日に行う。
内容・方法については、成人看護学実習Ⅰの要項にそって詳細に行う。

成績の評価

実習評価表に基づいて評価する。

自己学習

解剖生理学および疾病論、ゴードン看護理論など、既習の学修内容を整理しておくこと。

履修上の注意

1. 患者の安全・安楽、プライバシーの保護に十分配慮する。

2. 実習中は原則として実習指導者または担当教員の指導を受ける。
3. 看護実践は原則として実習指導者または担当教員とともにやる。
4. 患者の状態、実習に関する内容は、適切なタイミングで報告する。
5. 健康管理に努め、自らが感染症の媒介者にならないよう十分に注意する。

テキスト

成人看護方法論Ⅰ、Ⅳの講義および関連科目で用いたテキストや講義資料

オフィスアワー

水曜日 12:00～13:00
実習期間中は学内日

研究室・授業用E-mail

5号館 7階 C717研究室 yohii@kansai.ac.jp

講義コード	3N525011
講義名	成人看護学実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	3
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3312
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸美輪子〔看護師〕
 兒嶋 章仁〔看護師〕
 阿部香織〔看護師〕

目的

周手術期にある対象者を総合的に理解し、治療に伴う回復過程や社会生活への適応に向けて、主体的に取り組めるための周手術期看護を実践する基礎的能力を養う。また、危機的な状況にある対象者や家族への看護について考えることができる。

到達目標

1. 対象の病態および治療の目的を理解し、手術に伴う経過とその看護について理解する。
2. 治療に伴う形態機能の変化を受容し、適応に向けての援助を考えることができる。
3. 対象者の状況に合わせた看護計画を立案、実施評価、修正ができる。
4. 患者・家族の人格や人権を尊重した対応ができる。
5. 保健医療チームの一員としての役割を自覚した行動ができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／協働する力

授業計画

1. 詳細については、別冊看護学実習要項を参照のこと。

成績の評価

全記録類、事前学習、実習態度、カンファレンスなどの参加状況により総合的に判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、実習記録と実習状況についてのフィードバックを行う。

自己学習

1. 急性期病態学、および疾患の理解を深めておく。
2. 事前学習課題については、別途指示するので、定められた期日に提出する。
3. 実習期間中は、事前学習や授業資料などを持参する。

履修上の注意

1. 適切なタイミングで報告・連絡・相談する。
2. 実習記録は全てファイルに綴り、紛失することのないように注意する。個人情報の取り扱いには十分に配慮すること。

- 行動計画は担当教員、実習指導者の指導を受け、患者の安全、安楽に留意すること。
- 自分が感染者・媒介者とならないように感染予防に努める。

当該科目はキャリア教育科目に指定されています。

テキスト

1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
2. 成人看護学 成人看護技術 南江堂
3. 周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ

参考資料

1. 講義から実習へ 周手術期看護 1・2・3・4・5 編著 医歯薬出版株式会社
2. エキスパートナース Mook36 まんがで見る術前・術後のケアのポイント, 照林社

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714研究室
kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	3N527011
講義名	老年看護展開論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3404
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

岩井 恵子、森岡朋子、川添英利子（看護師）

目的

健康障害のある高齢者の看護をICFに基づいて、展開する能力を養う。

到達目標

1. ICFの構成要素に基づき収集した情報を分類し、対象者の全体像を把握することができる。
2. 対象者の生活機能を分析することができる。
2. 健康状態と背景因子（環境因子・個人因子）が、生活機能に及ぼす影響を理解することができる。
3. 健康障害のある高齢者に必要な看護を見出すことができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ICFの概念を用いた看護過程の展開方法を理解する
2. 情報収集とその整理（事例1）
3. 情報収集とその整理（事例2・事例3）
4. 対象の生活機能を分析する
5. 生活機能を脅かす因子を分析する
6. 対象の生活機能から生活のしづらさを見出す
7. 4～6についてカンファレンスを行う
8. 対象のより良い生活について考える
9. よりよい生活のための目標を考える
10. 7～9についてカンファレンスを行う
11. 目標を達成するための計画を立案する
12. 立案した計画についてカンファレンスを行う
13. 事例1の看護について発表会
14. 事例2の看護について発表会
15. 事例3の看護について発表会

成績の評価

演習チェックリストとレポートによる評価とする。レポートは事例1～3のいずれかひとつを提出する。

チェックリストはすべての項目をクリアすることとする。レポートの内容については授業中に説

明する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後にレポートを開示する。

自己学習

授業で提示する課題、それらに関連する項目について、予習・復習し授業に臨む。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

老年看護学 (1) : 高齢者の健康と障害 (メディカ出版)

老年看護学 (2) : 高齢者看護の実践 (メディカ出版)

老年看護学概論、看護に活かす疾病論、老年看護方法論Ⅰ、老年看護方法論Ⅱ 授業資料を参照とする

参考資料

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：水曜日12：20～13：00 メールにて、事前にアポイントメントをとればその他の時間においても調整は可能である。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp(岩井)

講義コード	3N528011
講義名	在宅看護方法論Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3407
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 前久保 恵	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

上坂 智子〔看護師〕、鹿島 英子〔看護師〕、前久保 恵〔看護師〕

目的

『在宅療養と看護』と『在宅看護方法論Ⅰ』で学んだ対象理解と看護の視点を踏まえて、対象への看護実践を学ぶ。

具体的には、対象のライフサイクルに添ったケアであることを前提に、地域社会システムの中で生きている対象の多様化するライフニーズに対してそのアセスメント能力を養い、在宅生活における健康ニーズを中心とした症状・状態別の看護、在宅での高度な医療継続を支える看護について、必要な知識と技術を修得する。

到達目標

対象のライフサイクルに添ったケアであることを前提に

1. 地域社会システムの中で生きている対象の多様なライフニーズと在宅生活における健康ニーズをアセスメントするための知識と考え方を修得する。
2. 在宅生活における健康ニーズを中心とした症状・状態別の看護、在宅での高度な医療継続を支える看護について理解し、必要な知識を修得する。
3. 社会資源の活用や関係者の連携・協働が在宅療養の継続を支えていることを理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス：在宅療養生活の継続支援に必要な看護の特徴／廃用症候群について（前久保）
2. 褥瘡ケア（上坂）
3. 在宅酸素療法を受ける療養者の日常生活支援①（前久保）
4. 在宅酸素療法を受ける療養者の日常生活支援②（前久保）
5. 人工呼吸器療法を受ける療養者の日常生活支援（前久保）
6. 終末期の療養者と家族の支援（上坂）
7. 在宅療養を支える社会資源（上坂）
8. 難病療養者の日常生活支援①（上坂）
9. 難病療養者の日常生活支援②（上坂）
10. 難病療養者の日常生活支援③（上坂）
11. 障がい児看護①（絹川）
12. 障がい児看護②（絹川）
13. 障がい児看護③（絹川）
14. 在宅療養における健康障害に応じた看護①（前久保）

15.在宅療養における健康障害に応じた看護② (前久保)

成績の評価

定期試験100%で評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと

テキスト

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論① 地域療養を支えるケア」(メディカ出版) **2年生で購入済

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」(メディカ出版) *2年生で購入済

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

前久保 恵 月曜日 12:10~13:10

上坂 智子 月曜日 12:10~13:10

鹿島 英子 月曜日 12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C706研究室 (前久保) maekubo@kansai.ac.jp

5号館7階C713研究室 (上坂) uesaka@kansai.ac.jp

5号館7階C710研究室 (鹿島) kashima@kansai.ac.jp

講義コード	3N529011
講義名	在宅看護展開論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3408
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 上坂 智子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

上坂 智子 [看護師]
 前久保 恵 [看護師]
 鹿島 英子 [看護師]

目的

『在宅療養と看護』と『在宅看護方法論Ⅰ』『在宅看護方法論Ⅱ』で学んだ対象理解と看護の視点を踏まえて、在宅における対象への看護展開プロセスについて学ぶ。
 また、地域社会でのコミュニケーション力・調整力・合意形成力等を培う。

到達目標

- ① 事例を通して、地域社会システムの中で生きている対象の多様なライフニーズを直面している病や障がいとの関連においてアセスメントする能力を修得する。
- ② 事例を通して、在宅生活における健康ニーズを中心とした看護展開プロセスについて理解する。
- ③ グループワーク演習を通して地域社会でのコミュニケーション力・調整力・合意形成力等を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス：在宅における対象の支援に必要な看護の展開（上坂）
2. 在宅で療養するALSの方の看護①（課題レポート1）（上坂・鹿島）
3. 在宅で療養するALSの方の看護②（上坂・鹿島）
4. 在宅で療養するALSの方の看護③（上坂・鹿島）
5. 在宅で療養するALSの方の看護④（上坂・鹿島）
6. 在宅で酸素療法を受ける療養者の看護①（課題レポート2）（上坂・鹿島）
7. 在宅で酸素療法を受ける療養者の看護②（上坂・鹿島）
8. 在宅で酸素療法を受ける療養者の看護③（上坂・鹿島）
9. 事例展開演習グループワーク①（上坂・鹿島）
10. 事例展開演習グループワーク②（上坂・鹿島）
11. 事例展開演習グループワーク③（上坂・鹿島）
12. 発表準備 提出（上坂・鹿島）
13. グループワーク発表①（前久保・上坂・鹿島）
14. グループワーク発表②（前久保・上坂・鹿島）
15. まとめ

成績の評価

課題レポート（2課題）70%、グループワークへの取り組み度10%、グループワーク発表20%で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

ナースング・グラフィカ 「在宅看護論① 地域療養を支えるケア」（メディカ出版）*2年生で購入済

ナースング・グラフィカ 「在宅看護論② 地域療養を支える技術」（メディカ出版）*2年生で購入済

参考資料

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

前久保 恵 月曜日 12：10～13：10

上坂 智子 月曜日 12：10～13：10

鹿島 英子 月曜日 12：10～13：10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C706研究室（前久保） maekubo@kansai.ac.jp

5号館7階C713研究室（上坂） uesaka@kansai.ac.jp

5号館7階C710研究室（鹿島） kashima@kansai.ac.jp

講義コード	3N534011
講義名	障害者と感染症の保健活動
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N3-4201
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

室谷牧子〔保健師・社会福祉士・介護支援専門員〕
西井崇之〔保健師〕
喜多田誠子〔ピアカウンセラー〕

目的

生活する上での障害、難病、感染症を有する人々とその家族の地域生活におけるニーズと保健福祉施策について学び、個人の尊厳と地域共生社会における保健福祉活動の実際を理解する。さらに、地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

到達目標

1. 「障害」と個人の尊厳について自分なりの考えを述べるができる。
2. 生活上の障害、難病、感染症を有する人々とその家族の地域生活における健康課題およびニーズを理解する。
3. 保健医療福祉制度論を主とする既習の保健福祉施策（法令、制度）に関する知識を元に、本講義で対象となる人々の生活を支える行政や関連機関の役割、地域保健福祉活動の実際を理解する。
4. 地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス 「マイノリティ」について考える 室谷
2. 障がいがある子どもと家族の保健活動①：子どもと家族の支援ニーズ 西井
3. 障がいがある子どもと家族の保健活動②：地域支援の展開 西井
4. 地域共生社会を1人1人が構築するために
当事者活動とピアサポートの意義から我々の役割を考える 特別講義 喜多田
5. 社会生活に障害がある人たちへの支援①：ICFの考え方と社会生活の支援 室谷
6. 社会生活に障害がある人たちへの支援②：地域資源の活用と創生 室谷
7. 精神保健活動①：精神障がい者と家族の支援ニーズ 室谷
8. 精神保健活動②：地域支援の展開 室谷
9. 精神保健活動③：こころの健康づくり 室谷
10. 難病保健活動①：難病対策の現状と主名難病の特徴 室谷
11. 難病保健活動①：難病を有する人々のニーズと地域支援の展開 室谷
12. 感染症対策の変遷と現状の理解（海外・国内） 室谷
13. 感染症対策と保健活動①：結核対策 室谷

14. 感染症対策と保健活動②：身近な感染症 西井
15. 感染症対策と保健活動③：STD 室谷

成績の評価

試験（小テスト含む）80%、日々の記録・レポート20%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期テスト終了後に模範解答を開示する。
日々のレポートは、都度解説を実施する。

自己学習

既習科目について復習し、下記の理解を深めておくこと。

1. 公衆衛生の理念、公衆衛生看護活動の方法および技術
2. 講義内容に関連する疾患
3. 障害・難病保健および感染症対策に関わる法令、制度

その他、講義で配布したプリントは必ず次回までに精読する。自己学習の目安は1コマにつき2コマ相当(180分程度)の予習・復習を行うこと。

履修上の注意

この科目は保健師国家試験受験資格を得るために必要な科目です。

テキスト

1. 「公衆衛生看護学.jp 第4版」 (インターメディカル) (2年次に購入済み)
2. 「国民衛生の動向2017/2018」 (厚生統計協会) (2年次に購入済み)
3. プリント配布

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C709研究室muroya@kansai.ac.jp(室谷)、5号館7階共同研究室nishii@kansai.ac.jp(西井)

講義コード	3N535011
講義名	家族看護論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N3-4202
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕

目的

家族に対する看護は地域（家庭）だけでなく、臨床（病院）においても対象者と切り離せない重要な看護である。本科目では、看護に用いる家族看護の理論および家族看護過程について学び、事例を通して家族看護の理解を深める。また、臨床場面における家族看護の実際について学び、看護職の役割を考察する力を養う。

到達目標

1. 家族および家族看護に用いる理論について理解できる。
2. 家族に対するアセスメントおよび家族看護過程について理解できる。
3. 事例を通して家族に対する看護過程を展開し、対象および家族に必要な看護を考えることができる。
4. 臨床場面における家族看護の実際を知り、看護職の役割を考察できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス、家族とは、家族看護とは
2. 家族看護に用いる諸理論
3. 家族とのコミュニケーション
4. 家族看護過程
5. 事例を通して家族看護を考える
6. 家族看護の実際①（家族支援専門看護師）
7. 家族看護の実際②（家族支援専門看護師）

成績の評価

試験80%、レポート10%、授業への取り組み度10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
復習では、公衆衛生看護学および他の看護学の授業において学ぶ家族の理論について復習しておくこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目である。

但し、家族看護は看護師においても必要となるため、保健師課程に関わらず関心のある方はぜひ履修してください。

テキスト

プリント配布

参考資料

「家族看護学 理論と実践 第4版」（日本看護協会出版会）

「系統看護学講座 別巻 家族看護学」（医学書院）

「看護学テキスト 家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える」（南江堂）

オフィスアワー

水曜日 12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C711研究室、kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	3N536011
講義名	公衆衛生看護支援論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N3-4203
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

室谷 牧子〔保健師〕
 高橋 美佐〔国際コーチ連盟アソシエイト認定コーチ・ヘルスコーチジャパン認定トレーナー〕
 平尾 恭子〔保健師〕
 西井 崇之〔保健師〕

目的

公衆衛生看護における保健指導の概念と保健行動の変容を支援するための基本的な理論とコミュニケーションスキルを理解し、対象に合わせた保健指導を効果的に行うことができる。また、ヘルスプロモーションの立場から、個人や社会が抱えている健康課題の解決策について、PDCAサイクルに基づく公衆衛生看護過程の一連のプロセスを実践を通し理解する。

到達目標

- 1) 公衆衛生看護活動を実践する基盤の一つとなる保健指導、健康学習、健康教育についてその基礎理念を理解する。
- 2) 行動変容支援の基本的スキル（コーチング）を理解し、実践できる。
- 3) 模擬事例を用いて個人や家族、地域の健康課題解決にむけたPDCAサイクルに基づく保健活動（アセスメント、目標設定、指導案の作成、保健指導の実施、評価）の過程を、対象にふさわしい方法を選択して実践することができる。
- 4) 体験を通して看護職に必要な保健指導の基本的技術が習得できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス 支援の方法と保健指導に活かす行動変容理論 室谷
2. 保健指導に必要なコーチングスキル① 高橋 室谷 西井
3. 保健指導に必要なコーチングスキル② 高橋 室谷 西井
4. 保健指導に必要なコーチングスキル③ 高橋 室谷 西井
5. 保健指導に必要なコーチングスキル④ 高橋 室谷 西井
6. 事例のアセスメントと保健指導の立案 室谷 高橋
7. コーチングを活かした保健指導の実際① 演習 室谷 高橋 平尾 西井
8. コーチングを活かした保健指導の実際② 演習 室谷 高橋 平尾 西井
9. 家庭訪問の対象と方法 平尾
10. 新生児訪問計画の立案① 平尾 室谷 西井
11. 新生児訪問計画の立案② 平尾 室谷 西井
12. 新生児訪問演習① 平尾 室谷 西井

13. 新生児訪問演習② 平尾 室谷 西井
14. 新生児訪問演習③ 平尾 室谷 西井
15. 事例の活用と保健事業・施策への反映 室谷

成績の評価

評価は試験20%、演習の取り組み度（コーチング、保健指導、家庭訪問の実際）40%、事前学習・企画書・媒体（資料）・日々の記録40%、レポート20%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

自己学習

公衆衛生看護活動の方法については公衆衛生看護概論、ライフサイクルと保健活動、健康教育論での学習内容を復習しておくこと。日常から健康に関する社会のニュースに関心を持ち、自分なりに情報を整理しておく。事業の展開に合わせ必要な学習と作業を計画的に行うこと。自己学習の目安は授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当である。

履修上の注意

この科目は保健師国家試験受験資格を得るために必要な科目です。

テキスト

1. 「公衆衛生看護学.jp 第4版」(インターメディカル) (2年次に購入済み)
2. 「国民衛生の動向2017/2018」(厚生統計協会)(2年次に購入済み)
3. 配布資料

参考資料

随時紹介する

オフィスアワー

12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C709研究室muroya@kansai.ac.jp (室谷)、5号館7階C711研究室kyo.hirao@kansai.ac.jp (平尾)、5号館7階C721研究室nishii@kansai.ac.jp (西井)

講義コード	3N537011
講義名	助産学概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N3-4301
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中静枝（助産師）
岡本喜代子（助産師）

目的

助産学の基本的知識および視座を臨床の実践より獲得する。

到達目標

1. 助産とは何かを考察できる。
2. 助産師の定義と業務範囲を比較検討できる。
3. 助産学における理論を理解できる。
4. 助産分野における倫理的課題について説明できる。
5. 助産師の専門性と責任を説明できる
6. 助産の文化歴史を理解することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. ガイダンス、助産の概念（田中）
2. 助産師の定義と業務（田中）
3. 助産学を支える理論（田中）
4. 助産師と倫理（田中）
5. リプロダクションに関する解剖・生理（田中）
6. 性の行動と理論（田中）
7. 助産の歴史と文化①（岡本）
8. 助産の歴史と文化②（岡本）

成績の評価

レポート80% 課題20%で評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

授業計画に沿って、授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと

履修上の注意

助産師課程履修者選択選考試験合格者は必修授業となる。

テキスト

「助産学講座1」「助産学講座2」 医学書院

参考資料

助産力：日本助産師会出版
子宮力：日本助産師会出版等
別途提示する

オフィスアワー

随時可能も事前に予約を入れること。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C703研究室 s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	3N538011
講義名	看護にいかすアロマセラピー
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開分野
科目ナンバリング	N3-4405
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

百合邦子（AEAJ アロマセラピーインストラクター）

目的

アロマセラピーで用いる精油は、私達の身近にあり、誰でも簡単に入手し使用できる「雑貨」である。しかしその種類や活用方法は広く、自己の心身のケアのみならず、昨今では統合医療としてメディカル面での活用が注目されている。

本講義では、このアロマセラピーの基礎知識と可能性について修得する。

到達目標

アロマセラピーの基礎知識と現在行われている研究を学修することにより、アロマセラピーを的確に用いることができるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

- 1.アロマセラピーのしくみ
- 2.精油について①
- 3.精油について②
- 4.精油について③
- 5.アロマセラピーの利用法
- 6.アロマセラピーの研究
- 7.その他（まとめ、実習）

成績の評価

定期試験で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後に開示します。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行って下さい。非常に短期間での学修となります。講義内容を整理・復習するのみならず、参考テキスト等を活用し、自己知識の幅を補充して下さい。

テキスト

各項目毎に随時資料を配布します。

参考資料

1. 「アロマセラピー検定テキスト 1級、2級」(社団法人 日本アロマ環境協会)
2. 「日本アロマセラピー学会エビデンス集ー過去10年間(2002～2011年)の歩み・論文集ー」
3. 「日本アロマセラピー学会エビデンス集2ー最新5年間(2012～2016年)の歩み・論文集ー」
4. 「クリニカル・アロマセラピー 介護 福祉 医療の現場に活かす」(フレグランスジャーナル社)

オフィスアワー

月曜日 12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室 yuri@kansai.ac.jp